



KINAN HOSPITAL

さざんくろす

Vol.88 December.1st

Kinan Hospital

令和6年も残りわずかとなりましたが、皆様にはお元気でご活躍のことと思います。



病院長 阪越 信雄

昨年まで社会を揺るがせていた新型コロナウイルス感染症(COVID-19)も、今年に入ってからはずっかり影を潜めています。この8月には第11波が来ていたとの情報もありましたが、社会的にも病的にも大きな騒動になりませんでした。職員全員で大変な思いをしつつ頑張っていたところが遠い昔のころのようです。しかしながら、今後もコロナを含めた何らかの感染症が流行する可能性があることは、頭の片隅に留めておくべきでしょう。

今年は、年明け早々の能登半島大地震、その翌日の羽田空港事故と、痛ましいニュースでスタートしました。一方で、夏のパリオリンピックでは日本勢が金メダル 20 個を獲得し、大リーグでは大谷選手が50本塁打50盗塁を達成するなど、私たちが勇気づけてくれる明るいニュースもありました。

令和6年は紀南病院で大きな出来事が3つありました。

第1は「初診時選定療養費7700円の徴収開始」です。令和5年に紹介受診重点医療機関に認定されたことを受け、令和6年2月から紹介状を持たない初診患者から「初診時7700円徴収」を開始しました。それ以前が2100円だったこともあり、いろいろな反発も予想されましたが、医師会や地域住民へ「開業医と当院との機能分担の重要性」を繰り返しアナウンスし、大きなトラブルなく粛々と導入することができました。

第2は「病院機能評価受審」でした。職員の皆様には準備で大変なご負担をおかけしましたが、「病院機能評価 一般病院2機能種別版評価項目 3rdG:Ver.3.0(2024年9月6日～2029年9月5日)」を無事に取得することができました。皆様のご協力に対して改めて御礼申し上げます。評価を得ることが目的ではありませんでしたが、準備段階で院内の種々の体制を見直し、改善することで、より質の高い医療サービスを効率的に提供できる病院へさらに進化できたと考えています。職員の皆様、ぜひこれからも良質な医療を地域住民に提供し続けましょう。

第3の出来事は4月から「医師の働き方改革」が厳格に実施されたことです。当院はいわゆるA水準の施設となったため、医師の残業時間は100時間/月未満・960時間/年未満に厳しく制限されました。慢性的な医師不足に加え残業が強く規制されたことにより、今後の地域医療への悪影響が心配されます。業務内容の見直しやタスクシフト等、先を見据えた対策が必要だと認識しています。

さて、病院収支については明るい話はできません。COVID-19が蔓延していた時期は、当院を含めた多くの公立病院で「医業収支は赤字」「総収支は黒字」でした。COVID-19によって外来患者・入院患者が大きく減じたために診療そのものによる収支は赤字になったが、COVID-19空床補償費(いわゆるコロナ補助金)によって病院全体の収支は結果的に黒字になった、という構図です。そんなコロナ補助金も、COVID-19の収束に伴ってついに支給されなくなりました。当院における医業収益の損益分岐点となる入院病床数は300床ですが、最近はそれを大きく下回った入院患者数となっています。人口減少・人口構成変化等から「入院医療需要」が全国的に down-trend にある中で、今後当院の入院患者が以前のように回復する見込みは期待薄と言わざるを得ません。つまり「紀南病院は急性期病院です」「当院は急性期の患者をバリバリ治療します」みたいな旗をいつまでも振り続けてはられない状況になりつつあるのです。地域医療構想のもと、当院においても「地域包括ケア病棟」を設置しましたが、今後はさらに新しい病院機能編成を考慮しなければならないかもしれません。

これまでも繰り返しお話ししてきましたが、紀南病院は私たち職員の生活を守り、同時に地域住民の生命を守らなくてはならず、このためには安定した経営が何よりも重要です。これからも厳しい道のりが続きますがしっかりと努力して行きたいと思っています。

令和7年の干支は巳(み)です。脱皮する蛇のイメージから巳年は「復活と再生」を意味するそうです。また、「巳」と「実」をかけて、実を結ぶ時期、新しいことが始まる年、などとも言われています。いろいろな意味を持つ「巳年」ですが、古い体質や体制に別れを告げて、生まれ変わった新しい年になればと思っています。

来年も職員の皆様全員が健やかに生活し、笑顔で年末を迎えることができることを祈念して、私からの年末のご挨拶とさせていただきます。

研修医日記



研修医 大山 聡太

こんにちは。研修医1年目の大山聡太と申します。研修医が始まって半年が経とうとしておりますが、恥ずかしながら未だ仕事に関しては未熟な部分が多く、精進する日々が続いています。まだまだ初めましての方も多いので、簡単に自己紹介をさせていただきます。

生まれ、育ちは大阪府で、3人兄弟の末っ子です。父が会社を経営しているためか両親ともに商人気質であり、小学生の頃、ドバイで金持ち相手に医者をやれば大金持ちになれるよと洗脳されたのが、医者を目指したのがきっかけです。(笑)

しかし、邪な志のせいか勉強に身が入らず、成績は伸び悩んでいました。そんなとき当時医学部の従兄に「自分は現在日本で不足している心臓外科医になり、最先端医療の第一線であるアメリカで働き、スキルを獲得し、それを日本の医療に還元する。」という話に感銘を受け、自身もこの従兄と同じように社会に貢献する心臓外科医になり

たいと思い、勉学に励むようになりました。(その後、従兄は呼吸器外科医)

大学受験では、学生時代あまり勉強していなかった父が参加費10万円の自己啓発セミナーにはまり、「自分を信じる力や」と連呼しているのを聞き流しながら勉強し、無事医学部に進学しました。

大学は名古屋市立大学で、1型糖尿病サマーキャンプというボランティアサークルに入っていました。そのサークルでは、1型糖尿病の子供たちを集めてインスリンの打ち方等をレクチャーし、学校生活等での悩み事を共有したりするキャンプにレクリエーションの企画をしていました。子供との交流の際、ごちみなさすぎて、部員に「未知との遭遇みたい」といわれたのは、今となってはいい思い出です。

将来は大阪大学の心臓外科に入局しようと思っており、医局ですすめられた紀南病院で研修することを選びました。

至らぬ点が多くあり、ご迷惑をおかけすることが多々あると思いますが、先生方、看護師の皆様、技師さんの方々、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

はじめまして、初期研修医1年目の原田直人と申します。この研修医日記を通して多くの方に覚えていただけたら幸いです。

大学入学までを千葉と東京で過ごした後、大阪の大学へ進学しました。和歌山での暮らしは初めてですか、豊かな自然に囲まれて美味しいものを食べながら楽しく研修をさせていただいております。

大学時代は医学部学園祭の実行委員長やバスケ部のキャプテンを担当したりと、とても充実した学生生活を過ごしていました。バスケは働き出してからも田辺の体育館で月に1, 2回しているのによければご一緒できたらと思っています。大学生からの関西ライフは楽しいものですが、やはり関西弁には悩まされエセ関西弁と何度揶揄されたか分かりません。試行錯誤の末ようやく身につけた“関西弁”も働き出して敬語を使う機会が増えたからか標準語の割合が増えていく一方です。その上、ここ最近は田辺の方言にもどんどん影響されている気がします。院内で聞くに耐えないエセ田辺弁を耳にした際は「黙りよし」とガツンと言ってやってください。

関西弁や田辺弁は苦手ですが、外国語の勉強が好きで学生の頃は5ヶ国語を話せる時期もありました。働き出してからなかなか使う機会も勉強する時間もなく、今は全然話せなくなりましたが、、、いつか外国人患者さんが来た際にポケットウオッチでなく原田を呼ぼうと思っただけのようにまた勉強しなおそうと思います(笑)

初期研修医として働きだして半年が過ぎました。もちろんまだまだ分からないことだらけで勉強不足、実力不足を突きつけられてばかりの毎日ですが、上級医の先生方を中心に多くの方々のおかげで有意義な研修をすることができております。志望診療科は小児科、特に新生児科ですので初期研修の間は将来の専門分野と直接は関係のないことがどうしても多くなってしまいますが、医師として必要とされる基本的な知識、技術、態度を修得できるように日々一生懸命頑張っておりますので今後ともよろしくよろしくお願いいたします。



研修医 原田 直人

機能評価受審 病院の質改善への取り組み

サーベイヤーが来院した。強面の眼光鋭い方々と思っていたが、意外と穏やかな方々であった。とはいえ、人は見かけで判断してはいけない。能ある鷹は爪を隠す、というではないか、油断してはいけない。重箱の隅をつつくような質問があるかもしれない、これに答えられないと認定を逃すかもしれない。そう考えると、背筋が寒くなった。

不安を払拭するために、心の中でこう念じた。「武蔵坊弁慶は紀南出身である。武蔵坊弁慶は一騎当千の強者であった。だから、紀南病院職員も一騎当千の強者である。」論理的には落第の三段論法であるが、信じる者は救われる、自分たちは一騎当千の強者と信じて審査に臨んだ。

まず、書類確認。一通りの資料を揃え、データ形式での閲覧は3台のパソコンで閲覧してもらえればいい。サーベイヤーの皆さんどうぞ見て下さい。ここで高みの見物といくところであったが、あにはからんや、質問が矢継ぎ早に飛んできた。聖徳太子なら十人の訴えを一度に処理したそうであるが、元よりそんな能力はない。雨あられのように浴びせられる質問に、たちまち弁慶の立ち往生状態になってしまった。

のっけからの質問攻めに面食らったが、嵐のような書類審査が終わってからは落ち着いて質疑応答をできた。これも、コンサルタントを入れて準備してきた成果であろう。ただ、約十年前に受審した時の審査に比べて、「安全な医療を提供するための取組」や「継続的な質向上のための取組」に関する質問が多かったという印象を受けた。そこは、病院機能評価という事業が、病院の改善活動を促進し、病院体制の充実と医療の質の向上を図るためのものであるからであろう。

思いつくままでも、「新しい医療技術を導入するにあたっての倫理審査や実施者の能力評価の仕組みは？」「各部門で質改善の努力はされているが、部門横断的な質改善を行う部署は？」「臨床の現場で発生する具体的な倫理的問題に対する倫理指針は？」「病院としてどのような薬品をハイリスク薬としているのか？」といった質問があった。結果的には、これらの質問でC評価にはならなかったが、より質の高い医療を提供するためには、今後改善が求められるだろう。

2日間はあっという間に過ぎた。後悔先に立たずと言われるが、今思えば、あの時あのように答えればよかった、と思う事は多々あった。想定外の質問もあったが、事前に準備していたところの質問が多かった。手応えとしては、自己評価よりも評価は低いかもしれないが、どうにか認定されるのでは、というものであった。

通常、6~8週間後に中間評価が来る。3月末頃か、と思っていたが中々連絡がない。期待と不安が混じり合ったまま、じりじりしながら待っていたが、4月12日(ぎりぎり8週目)に中間評価が来た。C項目が2つという結果であった。代行入力の手軽な承認と、夜間処置時の患者確認のところで。中々難しい問題であった。が、担当部署が知恵を絞って改善策を策定し、追加審査ということで再提出をした。

長い時間がかかった。おそらく、がん診療連携拠点病院の要件になった関係で審査が立て込んでいるのであろう。最初のうちは、焦っていたが、もうその感覚も薄いでした。焦れる思いが無くなってしまった時に、ついに、審査結果が来た。9月11日のことであった。「認定」

欲しかった言葉である。病院長を始めとする幹部に報告したら、全員、表情が明るくなった。

苦勞が一気に報われた、晴れ晴れとした気分である。

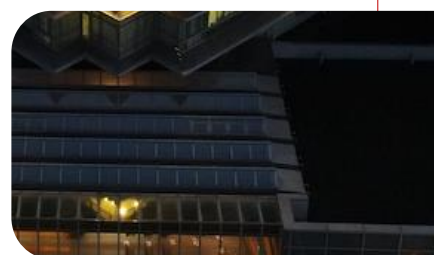
とはいえ、機能評価の認定取得は1つの通過点に過ぎない。

我々が目指すべきものは、病院のレベルアップである。認定病院の名に恥じないよう、改善すべきところを改善し、地域の皆様に、より安全でより質の高い医療を提供できるよう、努力していかなければならない。

そして、数年後、地域の皆様に、紀南病院の成長を実感して頂ければ、これほどの喜びはない。

追記 これは実話であるが、審査の最中に、ある職員が資料を取ろうとして立ち上がったところ、ズボンがお尻から破れたそうである。

ただ、替えのズボンを持っていなかったため、コートを着て院内ラウンドに立ち会ったそうである。さぞかし、異様な光景であったであろう。



病院のまど

New Face さ～ん 【医師】

①出身地②趣味・特技③一言アピール(敬称略)



やまだ こうすけ
《消化器科》山田 晃佑
①和歌山市 ②ゲーム・卓球
③これまで内視鏡検査や消化器疾患を中心に診療を行って
いました。精一杯頑張りますのでよろしく願います。

学校だより

10月11日(金)、「看護師を目指すものとして専門職業人の自覚を認識する」ことを目的に1年生23名の宣誓式が行われました。宣誓式では、一人ひとりが理想とする看護師像を述べ、決意を新たにしました。ナイチンゲールの看護の心とその教えを灯にし、その灯を受け取ることで、その意思を受け継ぐことを表し、少しずつ灯がともってゆく様は幻想的でした。

12月14日(土)には、第47回学校祭が開催される予定となっており、「紡ぐ」をテーマに2年生が中心となり、検査・模擬店・展示即売、手浴、などの催しを行うために、準備をしているところです。



第143回がんサロン「ふれあい」 開催のお知らせ

日時:2024年12月6日(金)14時～16時
場所:2階第5会議室
クリスマス会を行います!



編集後記

いよいよ年末の時期になりました。今年の夏も長かったですね。

個人的には冬の方が好きなのですが、これまた冬が短い！ウインタースポーツを楽しみたいのに、行く回数が年々減ってきているのが寂しいです。しかし、めげずに今期は2回、いや1回は行くぞー！！

K 記

大黒は、医療の未来を考える。
大黒は、安心と安全を考える。
大黒は、医療と物流をつなぐ。
大黒は、地域に笑顔を届ける。



株式会社大黒は
医療機器・医療材料の総合商社です
和歌山 和歌山支店
和歌山県内ヶすシステム部/和歌山支店

株式会社 大黒
【本社】〒640-8525
和歌山県和歌山市手平3-8-43
Tel: 073-431-0316
Fax: 073-423-1778
<https://daikoku-medical.co.jp/>

SEIKO MEDICAL

医療の先へ。セイコーメディカル株式会社

医療・保健・福祉・介護の分野で、
「生命を守る人の環境づくり」を通じて
地域の発展に貢献することが
私達の使命です。



<p>■本社 〒640-8287 和歌山市美海6丁目9番地の10 TEL. 073-435-2333 FAX. 073-435-2223</p> <p>■大阪支店 〒595-0012 泉大津市北豊中町2丁目5番28号 TEL. 0725-31-3610 FAX. 0725-31-3619</p> <p>■大阪営業分室 〒641-0012 和歌山市紀三井寺768番地の13 TEL. 073-448-3787 FAX. 073-448-3781</p>	<p>■田辺営業所 〒646-0011 田辺市新庄町2744番地 TEL. 0739-25-4535 FAX. 0739-25-4578</p> <p>■新宮営業所 〒647-0072 新宮市藤伏20番22号 TEL. 0735-31-8130 FAX. 0735-31-8133</p> <p>■奈良営業所 〒632-0082 天理市常楽町50番地の4 TEL. 0743-64-3607 FAX. 0743-64-4810</p>
--	---

SHIP HEALTHCARE GROUP

セイコーメディカル株式会社